

京都府 発達障害者支援センター 「はばたき」



京都府発達障害者支援センター「はばたき」は、発達障害のある方の相談や助言、情報提供などを行っています。センター長の竹村さんにお話をうかがいました。

Q.「はばたき」にはどんな人が相談に？

A.主に18歳以上のおとなの方です。多いのは、高校までは勉強もでき、学校で与えられた課題は問題なくできたけれど、**大学で**単位の取り方や授業の教室がわからなくなり、自分の発達障害に気づくケースですね。

就職活動で気づく人も多いです。多い人だと200社受けてもだめだと。筆記で受かって、面接で落ちてしまうんです。明らかにコミュニケーションがうまくとれないというのが自分でもわかるんですね。

Q.社会人の相談はありますか？

A.社会人になって障害に気づく人も多いですよ。

うまく就職しても、はじめは新人なので失敗も大目にみてもらえるんですが、そのうちミスが改善しないと、なんども注意をうけるようになります。その注意の仕方が、具体性に欠けるんですね。たとえば、「何回言ったらわかるねん」とか「どういづもりなんだ!」とか。本人はいったい何を叱られているのか、わからないんです。

結局、そうして離職と転職を繰り返すと、自己肯定感がなくなります。うつや適応障害をおこし、病院に受診して、ようやく発達障害があるんだって気づくわけです。これまでの失敗は障害のせいなんだとわかるだけで、救われることもあるようです。職場の人に勧められて相談に来られることもありますよ。

Q.発達障害と、その人をとりまく環境は重要ですか？

A.障害があることは、必ずしもハンディキャップではないんです。たとえば、とても个性的で優秀な医者や研究者に発達障害の特性があっても、それは障害と認知されないことも多いです。逆に、発達障害の特性があり、なかなか仕事に定着できない人は「障害がある」とされます。**その人に「障害」があるかないかは、置かれている環境が決めるところが大きい**です。だから、私たちの仕事は「環境調整」だと思っています。

Q.環境調整に必要なこととは？

A.環境調整は、その人のことを理解することから始まります。

たとえば、ある工場に勤める自閉症の人の場合、会社の配慮で一人だけの作業場でした。自閉症の人はコミュニケーションが苦手だという勉強をされたんでしょう。でも、じつは本人はそれがさみしかったそうです。たしかにコミュニケーションが不得手で、普通のたあいのない会話は苦手なところがあります。けれども、仕事上のコミュニケーションなら可能で、そういったことも一切ない職場は、自閉症の人でもさみしいんですね。

ひとくくりに発達障害といっても、人によって個性が高く、それによってどんな環境が必要なのか、千差万別です。**その人がどのような人かを知ることが大切です**。

Q.発達障害のある方を雇うことで会社にどんな変化がありますか？

A.発達障害のある方を雇うということは、「**適材適所**」で働くことを考えるきっかけになります。また、いままで抽象的だった指示を具体的な指示に変えることで、**会社の基軸が整えられることもあります**。

たとえば、スーパーのバックヤードで、発達障害のある方がわかりやすいよう、棚の商品名を大きくしたんです。それに一番喜んだのは、パートの人たちでした。発達障害のある方への支援は、つまるところ会社の業務の効率化になり、働きやすい会社になるでしょう。

京都府発達障害者支援センター「はばたき」

〒612-8416 京都市伏見区竹田流池町120 京都府精神保健福祉総合センター内
TEL:075-644-6565 FAX:075-644-6567